

学校法人 滋慶学園 東京ベルエポック美容専門学校 学校関係者評価委員会 評価結果および改善方策

【2019年6月25日実施】

自己点検自己評価(2018年4月1日～2019年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		自己点検・自己評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 育 成 育 人 理 念 材 像 ・ 目 的 ・	1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	3		<p>建学の理念に基づき、美容に関する高い専門技術、知識、情報力、感性、創造力、コミュニケーション力を持ち合わせ、入学者全員が即戦力として美容業界で活躍できる教育を提供することを組織目的に掲げて活動してきた。</p> <p>現在、美容業界は消費者の美に対する意識の変化、多様化に伴い、お客様一人ひとりに合わせたプラスアルファの専門性を持った正しい知識・技術と質の高いサービスが提供できる人材養成が急務であり、これらの人材を養成することが、今後の本学における使命であると認識している。</p> <p>また、少子高齢化にともない、学生層の変化を敏感に察知し、業界が求める人材像を先取りした人材育成をする必要がある。東京ベルエポック美容専門学校は「流行の美容を一人ひとりに」を掲げ、業界と連携した現場実践カリキュラムと一人ひとりを大切にサポートで入学者全員が即戦力として活躍できる教育を提供していく。</p>	<p>学校の3つのポリシーを定め、学生募集、カリキュラム、卒業認定を位置づけている。</p> <p>業界との連携を更に進め、東京ベルエポックが育てたい学生像とカリキュラム構成における考え方を共有している。</p> <p>TOPサロンゼミ：現場のプロを学校に招き、ゼミ形式の講義や実演、実技指導を行う。今の流行に敏感になるとともに、現場のプロと接することでモチベーション向上を図る。</p> <p>アシスタントプログラム：実際の現場アシスタントとしてプロについて現場を知るプログラム。現場の臨場感を肌で感じることで、自己の将来像を明確にする。</p> <p>ビューティ トレーニング ランド(BTL)：トータルビューティ科の学生がメイク、エステ、ネイルサロンを学内にオープンし、一般のお客様を迎え入れるプログラム。在学中からサロン運営、サロンワークの模擬体験をすることにより現場力を高める。</p> <p>※超高齢化社会へ向かう中、訪問美容のニーズが高まっている。学校として、美容師としてのキャリアプランの1つとして学校でもカリキュラムに取り入れる検討する</p>	3.0	<p>業界ではやはり学校でいかに現場を意識した授業を行っているかで練習のスピードが変わってきます。また、様々な技術を一度でもやったことがあるかでも変わってきます。TOPサロンゼミで様々な知識を入れアンプロで現場を体験できるのは良いと思います。</p> <p>業界をリードする方々との連携を蜜にされ、常に実技に活かされているのはとても素晴らしいことだと思います。学生たちが技術だけでなく一人一人がなぜ学ぶのか？なぜ美容なのかを人生の中で意味付けられるメンタルモデルに関する取り組みがあれば更に良くなるのではないかと思います。</p> <p>入学前の情報にて理解、共感したものであるため特段問題ないと考えます。</p>
	1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3					
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3					
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	2					
2 学 校 運 営	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	3		<p>事業計画は学校運営会議、法人常務理事会、法人理事会、法人評議員会の決議を受け、承認を得ている。</p> <p>学校の事業計画は毎年3月に研修を行い、全教職員へ周知徹底をしている。運営方針の実現のため、週1回の学校運営会議、学校全体会議及び学科会議、部署会議を通じて、問題点や課題を明確にかつ絞込みPDCAサイクルを回すことを意識している。</p>	<p>事業計画の構成</p> <p>①組織目的(普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的)</p> <p>②運営方針(中期的に組織として目指していく方針)</p> <p>③実行方針(中期的な組織の運営方針を実現するための単年度の方針)</p> <p>④定量目標(受験者、教育成果(中途退学防止、欠席率、資格取得数、就職率、専門就職率等))</p> <p>⑤定性目標(人材育成や組織あり方等定性的な目標についての単年度目標)</p> <p>⑥実行計画(その方針を実現するための詳細な計画)</p> <p>⑦組織図(単年度)</p> <p>⑧職務分掌</p> <p>⑨部署ごとの計画及びスケジュール</p> <p>⑩附帯事業計画</p> <p>⑪職員の業績評価システム</p> <p>⑫意思決定システム</p> <p>⑬収支予算書(5カ年計画)</p>	3.0	<p>様々な会議を行い目標や教員全員の目指すものが共有され一丸となって運営できていると思います。</p> <p>毎年の事業計画が週一回の学校運営会議が部署会議に至るまできちんと周知される仕組みになっていることは全員の意思疎通する上でとても大切なことです。また、各会議体に権限委譲されたリーダーが存在することは意思決定のスピードや成果、チームのモチベーションに大きく意味を成すことではないでしょうか？</p> <p>・左記統括と読むかぎり健全な努力がなされていると感じます。</p>
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3					
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	3					
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	3					
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	3					
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	3					
	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	2					
			<p>個別セクションの情報システム化、その結果としての業務の効率化は推進されていると考えている。</p> <p>それは、業務のマニュアル化とシステム化が推進されたことと、法人内のコンピュータ関連会社の協力で、情報の一元化に成果が現れてきたことによる。入学前、在籍中、卒業後の流れの教育システムの中で、学生一人ひとりの情報を一元管理し、学生の様々な支援(進路決定、就職支援、学費相談等)の際に、その情報を活かし、適切な助言ができることで、専門就職への内定獲得や資格合格に結びつけることである。また、業務の効率化により、教職員が直接学生と接する時間を多くすることが可能になった。</p>	<p>学生の教育・就職・学費入金等、学生に関わる情報処理で一元化された運営を行っており、学生情報にプレがないようにシステム構築をしている。ipadによるシステムが導入され、各授業の出席管理がIT化されている。</p> <p>今後は更なるIT化に学園として取り組むことになっている。</p>	2.6		

3 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3	学科(コース)の課題を明確にして課題キーワードを抽出。 それによって養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。	学校の3つのポリシー「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」「アドミッションポリシー」を定めている。2019年度は学科毎の3つのポリシーを定めていく。	2.6	
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3	学科の養成目的、学年目標、学期目標、授業ごとの到達目標を定めている。	人材ニーズの変化や業界の変化に応じ養成目的/教育目的の見直しやカリキュラムの変更を行っている。 学科長を中心に、学校責任者、教務部長、キャリアセンターと連携し、組織的に決定している。	3.0	
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	2	学期ごとの到達目標や学年目標を設定し、修業年限の中で確実に到達できる方法を確立している。	「業界調査」、「学科調査(入学者傾向、在校生傾向、就職先傾向)」、「競合校調査」を行いカリキュラムに反映させている。	2.6	
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	2	カリキュラム作成を進めていくうえで、各学科でその分野に精通している講師を選定し、調査結果と核講師の意見を総合してカリキュラムの素案作成につなげている。	教育課程編委委員会を年2回開催し、業界からの意見を取り入れている。	2.6	
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	2	キャリア教育の体系化を図り、学生の入学前から在学中、そして卒業後までサポートする職業教育へとつなげている。	キャリアロードマップを作成している。キャリア教育を「キャリア形成段階」「キャリア設計段階」「キャリア開発段階」の3つに分類している。 同窓会を組織し、定期的な同意総会役員会を開催している。	2.0	
	3-9-4 授業評価を実施しているか	2	授業評価に関してアンケートを行い教員面談にてフィードバックを行っている。	学科長を中心に各授業を評価し、次年度の方向性を定めている	2.3	シラバス等で各授業の目標を定めてはいると思いますがそれがどれだけ生徒に共有、理解ができていないか重要ではないかと思えます。到達目標に毎回全員が達成しているのかそれが到達したならば次はどこまでできたかまたそれを達成したかどうかを学生自身が感じているのか。また、フィードバックをどのくらいの頻度で行っているのかが分かりませんがその都度授業ごとに学生は思うことがあると思うのでできる限り行ってあげるのが良いと思えます。
	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3	成績評価及び単位認定の基準は明確に定めている。基準の遵守は徹底的に行っている。また一方で必要なレベルまできちんと到達させた上で進級、卒業を出来るように、成績不良が予想される学生に対しては、早期段階から補習や特別授業を実施し、不足している部分を補う体制をとっている。	各科目、定期試験でAからEの5段階評価を行う。 A・B・Cを合格とし、D・Eを不合格とする。 A(優) (100~80点) B(良) (79~70点) C(可) (69~60点)合格 D(不可) (59~0点)不合格 E 受験資格喪失 ※2019年度生からはGPA評価を導入する。	3.0	職業人育成としての国家資格合格に向けて学校の3つのポリシーに基づき更に業界の最新のニーズ、競合調査そして国家試験対策センターとの連携などを行い学生への手厚さがとても伝わってきました。キャリア教育、社会との関係性構築の点で地域コミュニティー(商店街)としても協力できることはあると考えますので是非ご活用頂けたらと思います。また、私たちが様々な場面で別の学校の学生さんたちと関わることがありますがインターネットやスマホの普及により自ら創造する力やスキルが下がっているのではないと思えます。貴校でも実施されていると存じますが創造性教育や学びのリテラシー教育が今後更に重要になるのではないかと考えます。
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	2	学内外コンテストの受賞記録については、表彰者写真などの画像データも含めて記録しているが、更なる整備が必要。	滋慶学園アーカイブがあり、映像、画像を保存することができる。 外部へのコンテスト、ヘアショー、技術大会等への参加を推奨している。	2.0	
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3	学科ごとに目標としている資格に対して、100%合格を目標に独自に対策を立て、実施しているが、学生の変化に伴う新しい試験対策の構築が急がれる。	美容師国家試験結果 【美容師科】 受験者78名 合格者75名96.1%  【美容師実践科】 受験者31名 合格者24名77.4%	2.6	記入の通りに感じます。学生のマインドセットへの働きかけを強化されることを望みます。あくまで私学ですので貴社ポリシーを大切にしたいと思えます。成績不振に対する対処ももちろんですがキャリア同様学生のモチベーションを高め不振者を出さない予防内施策の強化を希望します。記入の通りかとおもいます。
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	3	国家試験不合格の学生に対しては、卒業支援として無償で受験対策講座を実施している。	滋慶学園国家試験対策センターと連携し、国家試験対策を実施している。 また、美容4校で組織する美容部会でも国家試験情報の共有をしている。	2.6	
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	3	美容師科においては養成施設の教員要件を満たした講師が授業を行っている。 新規採用の場合は4年以上の実務経験と当該科目の教員講習と認定を受けなくてはならない。	通常授業の他、TOPサロンゼミ、業界懇談会、就職セミナーなどを開催し、常に業界との連携を保つこと教員の確保につなげている。	3.0	
	3-12-2 教員の資質向上への取り組みを行っているか	3	学校では、教務研修を実施し、教授力向上とともにヒューマンスキルの向上も図っている。非常勤講師については、講師会議を通して情報共有を図っている。	教務部長が中心となり、教員の教育力向上への取り組みを行っている。 教員は教務部に所属し、それぞれの学科に所属している。	2.6	
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	3	さらに科目ごとの連絡会を開催し、講師間の教育内容の統一を図っている。	講師への共有資料 ①教育指導要領②学年暦③講師別時間割④科目シラバス ⑤キャリア教育ロードマップ⑥講師会議、科目連絡会の開催			
4 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	3	就職希望者に対する就職率に関しては開校以来100%を維持できている。これらはキャリアセンターと学科が、年度当初の目標設定から学生の内定獲得まで、常に連携しながら活動をしている成果である。	キャリアセンターの主たる業務  ① 入学希望者に卒業後の就職イメージを持ってもらう:入学希望者には、具体的な仕事の内容を理解してもらい、安心して学校を選んでもらえるようにする。 ② 在校生に対しての就職支援:在校生には面接時におけるスキルアップ指導や、筆記試験対策の実施等をサポートし、プロ意識を養い育てていく。 ③ 同窓生(卒業生)のキャリアアップ支援:卒業後の同窓生には就職した後にさらなるキャリアアップを考え、マネージメントやコーチングなどの実務レベルのスキルアップや、再就職支援を実施している ④産学連携を推進する。	2.5	一人暮らしの学生が多い分卒業生の連絡にはとても苦労するだろうと思えますがもう少しみづに連絡を取れた方が良いのではないかと思います。  就職率が100%は学校全体の厚い支援のすばらしい結果ではないでしょうか。我々地域コミュニティーとしても1社1社が学生さんにとって魅力のある企業になれる様に努力できればと思います。  就職活動支援についてはもう少し学生の活動内容をマイクロマネジメントしても良いと思えます。活動できない意志の弱い学生にはある程度の強制が必要かと。
	4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	3	各学科で資格取得の目標を達成するために、対策を立て、実行している。			
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	2	開校してからの歴史が浅い分、まだ卒業生に際立った業績などはないが、毎年卒業生に就業状況アンケート調査を実施し、状況把握に努めている。	ホームページに卒業生用ページを作成し、接点を保つ手段としている。 業界訪問を通じ、卒業生の評価フィードバックを受けている。		

5 学生 支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3	就職希望者内定率は100%であり、キャリアセンターと学科の連携が図られている。	滋慶学園グループの美容系専門学校4校の求人情報がキャリアセンターで閲覧することができる。各校で同じ分野の求人を共有することができ学生が多くの情報を得ることができる。 企業の採用時期に合わせて学内企業説明会の開催している。また学内面接試験などを行っている。	2.7	
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	2	中途退学の要因傾向は毎年その原因分類や発生時期など多角的な面から調査分析し、翌年以降の支援に役立てている。 また、キャリアサポートアンケートという学生の学習習熟度合いやメンタル面の状況などを把握するアンケートを活用し学生個々の状況を把握している。	担任力の向上を図るべく、学園グループの研修をはじめ、学内研修、チーム内のケースカンファレンスなどの会議・研修システムを構築している。 担任はクラス事業計画を作り、どんなクラスにしたいか、そのために何を、どのように、いつまでに、ということを経験した学生と共有している。		
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	3	担任が定期的な学生面談を実施すると共に、学園の学生相談室「滋慶トータルサポートセンター」で学生生活全般における不安や悩みの相談に乗る体制が出来ているため、一人一人の学生を支援する体制が出来ていると考える。	教職員全員がカウンセリングを学び、学園内組織(滋慶教育科学研究所)が主催する「JESCCカウンセラー資格」を全員に受講させ試験を実施することでカウンセリング技術の均一化を図る。 心理学/カウンセリング基礎知識習得を行うことで、学生相談室との連携が非常にスムーズにしている。また、進路変更アドバイザーによる進路変更支援も定着してきているが、あくまでも、入学した学科で卒業、就職が出来るということを一義的に考えている。		
	5-18-2 留學生に対する相談体制を整備しているか	2	学内に留學生支援センターを設置している。	留學生に対しては担任による個別面談を定期的に行い、ビザや学費相談には学生サービスセンターの教職員が当たっている。		
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	2	奨学金説明会、金融機関スタッフによるマネー教育を実施している。また、分納者に対してのケアを学生サービスセンターが中心となり実施している。	【ヘルプツク学費分納制度】 日本学生支援機構の予約採用を利用し、奨学金の採用決定月額で授業料の分納支払いをサポートするシステムである。毎月本人の指定講座へ振り込まれる日本学生支援機構奨学金を授業料に充当している。		
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3	学校健康法に基づき行われている定期の健康診断は4・5月中にすべての学生が受診することになっている。教職員も同様。また、学校医「慶生会クリニック」や「滋慶トータルサポートセンター」が学生の体と精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。	「慶生会クリニック」や「滋慶トータルサポートセンター」が学生の体と精神面の健康管理をしており、学生の健康管理を担う組織体制は確立されている。		
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	3	学園グループで運営しているジケイスペースかさい学生寮本部の学生寮(約900部屋)を中心に、近隣の提携不動産との連携により住環境の整備を確立している。 また、ひとり暮らしセミナーを実施し生活指導全般にも力を入れている。	本校は入学者の約6割が一人暮らしであるため、一人暮らしを円滑に送ることができるよう、入学直後に学生生活セミナーを開催している。		
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	2	接客スキルとサービスマインドを体験を通して学ぶ「学生スタッフ」を組織し運営している。  各業界主催のコンテストに参加している	学生が主体的に取り組む活動支援を案件に応じ行っている。		
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3	学生をサポートしていく上では、家庭との連携が大変重要と考えている。学園の基本方針に「保護者からの信頼」を掲げ、学園全体でその信頼獲得にむけ、様々な施策を実行している。 日々の出欠状況や生活面で気なることは即時に保護者と連携をとる体制や学期終了時には成績通知書の発送など常に保護者にも就学状況が分かるような取り組みを行っている。	入学式翌日に保護者会を実施し、保護者との連携を図っている。進級する直前の学習成果を保護者に体験してもらっている。		
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	2	卒業生を正会員とした同窓会組織がある。 卒業後の資格取得サポートや再就職支援体制についてもシステムが確立されている。	【生涯就職支援システム】 キャリアアップを目指す卒業生や転職を希望する卒業生に対して、キャリアセンターでは卒業後も就職の支援をしている。 【国家試験フルサポート制度】 資格取得に関して、在校時に未取得でも卒業後も無料で特別講座を開く体制をとっている。		
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	2	国家試験不合格者に対する受験支援やキャリアアップのための技術指導を行っている。 学生がプロと共に仕事をするアシスタントプログラムは500を超える企業と連携している。	TOPサロンゼミでは卒業生を講師として招いている。卒業生が教えることで、自らのレベルアップに繋がることも期待している。			
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	2	社会人のみならず、一人ひとりに合わせた履修を可能にするための長期履修制度や聴講生制度、一定条件内における遠隔授業制度などを導入している。				
6 教育 環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	2	当校の施設設備は以下の基準を全て充足している ・専修学校設置基準 ・美容師養成施設設置基準 ・各種資格認定団体認定校 設置基準 ・消防法に関する基準 ・バリアフリー条例基準 ・その他の建築基準 実習授業に力を入れている本校にとって、学内実習室が実際の現場で使われている設備を揃えていることが、必要不可欠である。実践教育のための学内施設、設備はかなり高いレベルで整備されていると考えている。	スペシャリストとしての技術を磨くための最新施設や機器を完備し、プロの現場と同じ器具、同じ環境で実習授業を受けることで、学生の学習意欲を喚起し、専門就職、資格合格率向上につなげる。授業以外でも、個別の課題に取り組む環境を用意している。 2019年度は校舎増築を行い、更なる学習環境の充実を図る。	2.3	今後校舎も増築するということにより良い環境ができると思います。  校舎も新しくなり機器についても近年更新されると伺いました。そのため教育環境という視点では学生さんは恵まれていると思います。また現実的かどうかは分かりませんが年単位で海外留学に行けるプログラムがあれば更に国際感覚と新たな感性が磨かれると思います。  見た感じ充実しているように思いますが・・・旅行ではないことを学生により伝えるべきだと思います。研修の成果はより詳しいレポートを求めた方が良いでしょう。校舎が複数に散っているので学生の所存の確認体制は充分配慮されたい。
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	2	海外研修の渡航先に関しては、学園の国際事業部と連携をして各学科の目指す分野の技術体験も含め、十分に体験出来ることを前提に選定している。海外研修は、国際教育という理念に基づく主要な教育実践の場と捉えている。 学外実習については実習概要から承諾、事前・事後教育、研修ノート、評価方法に至る一連の流れをマニュアル化している。 また、学外の実習中における事故に関する契約書も先方企業に調整の上、締結している。	学外実習・インターンシップ・海外研修を行うことで、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。		

	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	2	施設設備の耐震化については適切に対応している。 防災に対しては、マニュアルの整備、スタッフの役割分担、学生への情報提供など体制の整備はされている。 救急時における機器・備品も準備されている(全学生人数分の3日間分の食料、簡易トイレ、備蓄水、発電機、AEDなど)。 設備・機器のマニュアルをそれぞれの設置している教室に常備し、情報伝達に役立てている。	防災、火災訓練を実施し、学生、教職員、講師へ避難手順や方法を指示し実施している。 救急時における知識の習得と意識付けは出来ている。 すべての校舎入り口付近に自動体外式除細動器(AED)計5台を設置している。月に一度自動体外式除細動器(AED)の点検をしている。		
7 学生 の 募 集 と 受 け 入 れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(推薦入試による受け入れ人数等)を遵守している。	高等学校における進学説明会への参加や学校見学、体験授業の受け入れを行っている。 また、高校教員の学校見学等の受け入れは常に窓口を開いている。	3.0	オープンキャンパス等でしっかりできているのではないかと思います。 前回の会議でもかなり早期から募集活動をされ特に地域からの入学生が多いと伺いました。LINEでの辞退防止策までされているとは思わなかったので学校の教職員の皆様の努力が伝わってきました。 ご記入の通りかと。
	7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	3	学生募集活動は入学前教育という位置づけにしており、受験生の①職業適性の発見・開発②目的意識の開発の支援をしていく重要なプログラムとして位置づけている。 また、WEBや電話での問い合わせについては入学事務局に情報を集約している。また、資料請求者等の個人情報管理もチェックするシステムを整備している。	健全な学校運営に必要な不可欠な安定した入学確保のための、学科のイノベーションを常に行っている。		
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。 入学選考規定については学内での選考規程を基にした募集要項を発行し受験生に適切に告知している。 各回の選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。	各回の入学選考は学内で組織する選考委員により基準を基にした合格判定を適切に行っている。		
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	各回の入学選考は学内で組織する選考委員により基準を基にした合格判定を適切に行っている。			
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3	学納金は、その学科の教育目標達成(卒業時の到達目標)を目指した学校運営に必要な金額であり、人件費(講師・教職員)、実習費、施設管理・運営費等に当てられている。	毎年、各学科において教材及び講師の見直しを行っており、諸経費の無駄な支出をチェックしている。各学科から、素案として提出されたものを、最終的に学校事務責任者の事務局長がチェックして、厳正に確定をしている。		
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	3	東京都専修学校各種学校協会のルールを基準とし、募集要項に納入から入学辞退時の返還の取り扱いについて明記している。	合格後の辞退防止策として、入学前教育を行っているが、地方出身者へはLINEを通じたフォローを実施している。		
8 財 務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3	5年間の中長期的事業計画を立て、その中で収支計画を作成している。5年間の計画を立てることによって、短期的視点だけではなく中長期的な視点に立って学校運営を計画することになる。財務基盤の安定を図るために、指揮命令の系統を明確にし、計画(予算)の確実な遂行、予算実績対比により計画通りに実行されているかを確認している。	学園の本部機能は、学校の財務体制をしっかりと管理し、健全な学校運営ができるような仕組みになっている。また、財務監査は学園本部監査スケジュールを元に、会計監査人(公認会計士)、監事、理事メンバーで実施されて、健全な財務体制を築いている。	3.0	計画、分析、管理ができていると思います。 きちんとした体制が構築されていると思いました。 数字を見てないので正確な解答はできませんがご様子うかがう限り財務的には安定しておられるようです。
	8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	3	チェック機能を充実させており、常に情報を把握から分析できる体制を整えている。	I. 組織体制 1. 法人統括責任者2. 学校統括責任者3. 学校事務担当者 II. 公開書類 1. 財務諸表(財務目録・貸借対比表・収支決算書)2. 事業報告3. 監査報告書 III. 閲覧場所 法人本部		
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	3	5か年の事業計画においては運営方針に基づいて計画され、収支計画も運営方針に基づいて数値化される。 特に、収支計画は各学科の入学人数目標と予測、在籍数目標と予測から綿密な計画を立てている。学校、学科を取り巻く環境を常に考慮し、単年度ごとには見直し、健全な学校運営・学科運営が出来るよう努力している。	学科、学年ごとに講師料予算を組み適切な予算執行を行う環境を作っている。		
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	3	収支計画(予算)は5年間作成され、そのうち次期1年間の予算については具体的に作成する。	当初予算→四半期予算実績対比→修正予算→決算という流れの中で、適正な予算執行がなされるようになっている。		
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	3	学校法人滋慶学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会及び評議員会においてその報告をしている。	主なフローは以下の通り。 ①取引→②仕訳→③帳簿→④総勘定元帳→⑤試算表→⑥計算書類作成→⑦公認会計士及び監事の会計監査→⑧理事会・評議員会による承認→⑨行政へ報告		
	8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	3	財務情報公開の体制整備は平成17年4月1日には終了し、体制整備はできている。学園の特徴は、法改正の変化に迅速に対応できる機動力である。今後ともどんな法改正にも迅速に対応していくと考えている。	「財務情報公開規程」「情報公開マニュアル」によって、秩序整然たる順序に基づいて情報公開に対処している点が特徴として挙げることができる。		

9 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3	法令を遵守するという考えを学園の方針に掲げ、教職員全員でその方針を理解し実行に努めている。法人理事会の元に、コンプライアンス委員会を設立し、学校運営が適正かどうか判断している。現状では、学校運営/学科運営が適正かどうかは、各調査においてチェックできるようにしている。また、組織体制強化やシステム構築にも努めている。	(1)組織体制 ①財務情報公開組織体制 ②個人情報管理組織体制 ③広告倫理管理組織体制 ④地球温暖化防止委員会 ⑤進路変更委員会  (2)システム ①個人情報管理システム ②建物安全管理システム ③防災管理システム ④物品購入棚卸システム ⑤コンピュータ管理システム	3.0	評価、公表をしっかりと行っていると思います。 適切にコンプライアンスが守られているのではないかと思います。 ご記入の通りかと。
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3	全ての役員・教職員・講師が個人情報に関する法規を遵守し、個人情報保護に関する基本理念を実践するために「個人情報保護基本規程」を構築し、社会的要請の変化にも着目し、個人情報保護管理体制の継続的改善にも取り組んでいる。	全教職員・学生が個人情報保護研修を受講するとともに、ITリテラシーテストも受験している。	3.0	
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3	私立専門学校評価機構に加盟し、自己点検・自己評価に関する情報収集と準備を進めてきた。昼間部学科の卒業生を輩出した平成23年度より自己点検を開始した。	平成25年度より学校関係者評価委員会を設置し学校関係者評価の整備を開始した。また、同時に評価結果の公表に向けた取り組みも開始した。	3.0	
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	3	平成25年度より自己点検自己評価を実施し、学校関係者からも評価をもらいホームページに公表している。			
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3	学校関係者評価委員会を設置し学校関係者から評価をいただいている。また、同時に評価結果の公表も実施している。			
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	3	学校関係者評価委員会を設置し学校関係者から評価をいただいている。また、同時に評価結果の公表も実施している。	学校が閉鎖的にならないよう、施設開放をしている。		
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	平成25年度より教育課程編成委員会を組織し、平成26年4月からは「職業実践専門課程の基本情報について」を情報公開している。				
10 社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	地域への学校開放の他、江戸川区産業振興課の委託を受け、地域の祭りの出展などの協力体制をとっている。また全国各地からの修学旅行生などの職業体験や高等学校への出張授業など支援を継続的に実施している。	大学や系列他分野の専門学校へも出向き、学園祭でのメイクアップやネイル、就活メイク講座を行っている。	3.0	様々な活動を行っていると感じます。 昨年から私たちのハロウィンのイベントにもご協力を頂きありがとうございます。私たちも学生さんの普段の学びが表現できる場になる様にできればと思います。 前述の通りもっと発信された方が江戸川区にとじずに広域に。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	3	一部の国や地域には現地事務所を設け、留学生の受け入れや諸外国の教育機関からの海外研修や特別授業等の受け入れに関する調整機関として整備している。学園として教育提携をしている教育機関の教職員視察や教育内容についてのディスカッションを実践している。	台湾、韓国等からのインバウンド研修の受入を行なっている。学生の国際教育の充実のために研修先教育機関等との教育提携を行い、毎年プログラムの見直しを行っている。毎年英語スピーチコンテストを開催している。		
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	2	江戸川区の地域振興課主催の地域祭りへの出展、地域住民をお客様に迎える学生サロンのほか、地域の老人ホームへのボランティア等を行っている	福祉施設への美容ボランティアは学生の視野、価値観、人間性を高める機会と捉え、推奨している。		
◆学校関係者評価委員の御意見に基づく改善方策						
白石様・各論で書かせていただいた通りです。						